

項目	確認事項	届出内容	
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都ノートルダム女子大学	
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトノートルダムジョシダイガク	
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107582	
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府	
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学	
	科目名	短期インターンシップA	
	学部・研究科等名	国際言語文化学部・現代人間学部	
	担当教職員名・役職	ND教育センター 濱中 倫秀 准教授	
	受講者数実績年度	令和3年度	
	受講者数※インターンシップ参加者数	2	
	受入企業等数	2	
	受入企業等名	京都信用金庫、株式会社平和堂	
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ	
		6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ	
8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ			
9.中小企業でのインターンシップ			
10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ			
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)			
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい	
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事	
		2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)	
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容		
1-3.上記回答内容に関する詳細	実習先企業・団体の社員・職員の基幹業務補助や、店舗実習および営業同行を実施。また、対面およびオンラインでの課題解決型のワークショップやプレゼンテーションを実施		
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい	
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している	
		6.当該インターンシップは、選択科目として実施している	
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している	
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容		
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年	
大学 学部2年			
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 1単位		
2-5.上記回答内容に関する詳細	1、2年次生対象。事前・事後学習および夏期休業期間中に5日間以上の実習と、成果発表からなるプログラム		

要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	インターンシップの主旨・目的の理解、組織で働く際のマナーやコミュニケーションについて、また実習受入れ先企業・団体の研究を深めるなど行った上で、学生自身のインターンシップ実習での目標設定を行う。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習先での体験を他のインターンシップ参加学生とグループワークを通して共有し、自身の学びを深める機会として実施。さらに、事前学習時に設定した目標の達成度を評価し、以後の学生生活や進路決定への活かし方を検討する。最後に、インターンシップでの学びのまとめとして、校内での成果発表会を実施する。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	実習中に教職員が実習現場を訪問し、実習先担当者・学生の双方と面談し実習状況の確認を実施。実習の充実を図るため、実習中の学生の相談対応や実習中の注意点を伝える。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習時に学生自身が立てた目標に対する自己評価や成長した点、新たな課題などについて考えを深め、自分の言葉でまとめることで以後の学生生活の充実に役立てている。

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	5日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	5日間以上の実習。実習先により連続しない場合あり。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	実習内容について個別に実習先と打合せを行い、大学としてインターンシップの実施目的や意義を理解いただいた上で、事業の特徴を生かしたものとしている。また、実習に参加した学生の評価について、実習先から数値での評価のみではなく講評も併せて頂戴し、学生へのフィードバックを行っている。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://notredame.cloud-syllabus.com/View_Syllabus.php">https://notredame.cloud-syllabus.com/View_Syllabus.php</a>	
問い合わせ先	大学等名	京都ノートルダム女子大学
	担当部署名	キャリアセンター事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-706-3744
	メールアドレス	<a href="mailto:shushoku@notredame.ac.jp">shushoku@notredame.ac.jp</a>